

# ニュースレター

## 平成24年度第4回研修会 報告

## ビオトープ管理士の活かし方

2013年2月17日(日) ウィルあいち (愛知県名古屋市)

前半は、「ビオトープ管理士とESD (持続可能な開発のための教育)」について、当会中部支部会長の長谷川明子氏による基調講演が行われました。

愛知目標については長期目標、短期目標、そして2020年までの重点施策である「5つの基本戦略」、目標の達成に向けたロードマップや、700ある具体的な施策、50の数値目標とそれぞれについて、わかりやすく紹介、そのなかでビオトープ管理士が活躍できることについて解説されました。

また、「人々の意識が変われば、ビジネスが変わる。ビジネスが変われば、まちが変わる。まちが変われば、地球環境が変わる」と、市民レベルでの意識の改革の重要性を訴えるとともに、「ESDにおいてはビオトープ管理士がバックアップしていく

必要がある」と、教育面においてビオトープ管理士の活躍の場を広げていくことの必要性を熱弁されました。



中部支部会長 長谷川明子氏

事例紹介では、「企業としてのビオトープ管理士」について、当会の企業・団体会員でもある(株)加藤建設代表取締役社長の加藤徹氏より話がありました。

(株)加藤建設では「建設業は環境を破壊する仕事ではなく、人々が求めるものをつくるのが仕事」「豊かな自然環境など良いものを将来世代に残すことが、本当の未来づくり」という加藤氏の考えのもと、自社だけに留まらず長い目で見えた建設業界の復権をかね、環境分野に力を入れて企業活動を展開しています。

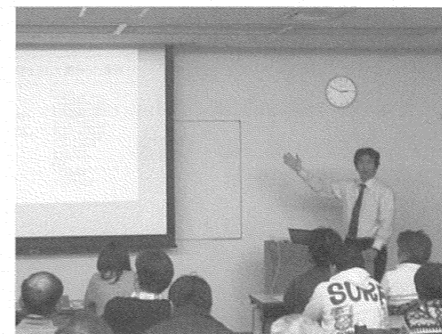
そのなかでも、ユニークな取り組みとして、「エコミーティング」があります。これは、公共工事を請けた際に、内部で環境対策について様々なアイデアを出し合い、発注者に対して環境対策を提案、最終的にはまだ1事例しかないという設計変更まで行ってしまうというものです。



株式会社加藤建設  
代表取締役社長 加藤 徹氏

また、長期的展望に立ったの企業戦略として、全社的にビオトープ管理士資格の取得に取り組んでおり、最終的には全社員の8~9割を有資格者にするという目標を持っています。これは、「ビオトープ」についての知識を全社員が持つことで会社としての土台をつくり、それによって現場で多くの環境対策が提案できるようになり、生物多様性の保全に貢献できるのではないかと考えているそうです。

現在、(株)加藤建設では、こういった取り組みは「自社だけがやっても何もならない。全国に広がらないと世の中が変わらない」という信念のもと、地元を中心に徐々に広めていこうとしています。



中部支部副会長 宇野総一氏

最後に、「ビオトープ管理士と学校ビオトープ」について、支部副会長である宇野総一氏より講義がありました。学校ビオトープの指導の仕方や留意点など、事例を挙げながらのお話は、宇野氏の豊富な経験をもとにしたもので、質疑応答が盛んに交わされました。

今回の研修会は、「ビオトープ管理士の活かし方」というこれまでになかった内容でしたが、全国の多くの有資格者が最も興味のある内容だったのではないかと思います。

参加者は宮城県や広島県など全国にわたり、その他の地域からも多くの問い合わせがあり、当日申込みも予想を大幅に超え、大盛況となりました。

また、意見交換会での感想・要望も、多くが「たいへん中身のある、役に立つ研修だった」、「今回のような活動事例をもっと知りたい」、「実際に施工されている(もしくは施工中の)ビオトープで研修会してほしい」といった前向きなものでした。同様の研修会が、各地で開かれることで、地域の活動を活性化することができるかと思えます。



盛り上がった意見交換会の様子